

特39

428

館藏書會育教本日大			
六	二		
三	四	二	四
册	號	架	函

新撰農工商往來

石印

二

石川縣尋常師範學校編輯

新撰農工商往來

版權所有

益智館藏版



明治二十一年二月廿五日內務省交付

新撰農工商往來卷三

工の部

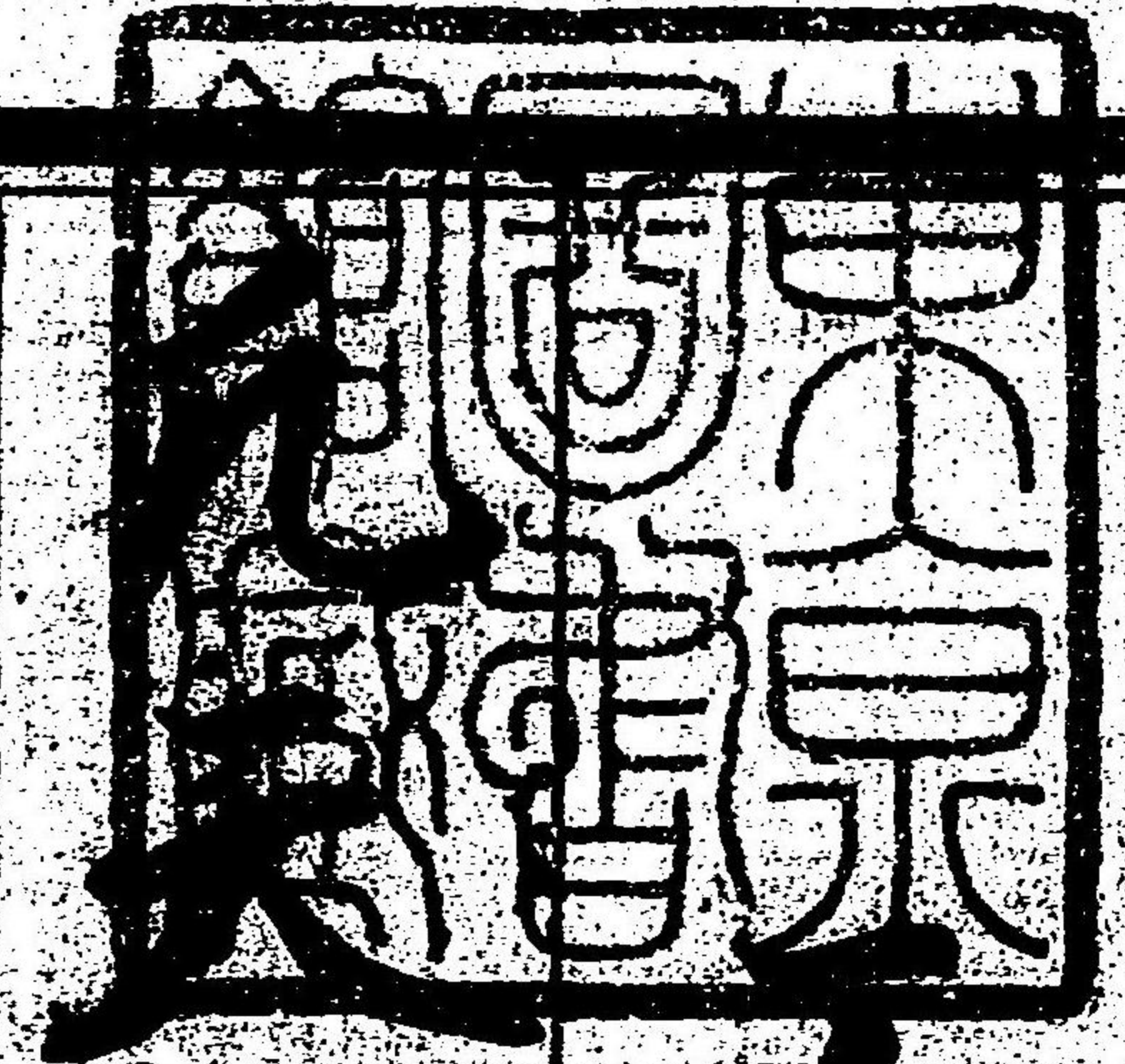
凡夫然物も變化を加

へ人生百般に需用も

供する物も或作るを

明治二十一年二月廿五日内務省交付
新撰農工商往來卷二

工の部



然物不變化を加

へ人生百般需用不

供止る物不或作る在

工業といふ工業は大小
の差あり大者開道造
船採鑛鑿金河及製鐵
の類はて小は大小官
より日用細末乃家財

並小玩弄物を能く技
術に至りて皆工業
の外からは先づ衣食
住日用手近き名目を
舉ぐ是ハ衣服洋服

和服の別あり織物も
絹木綿布毛布絨差
阿方洋服毛布絨
重し和服毛布を
好むす機具も高様

あり長梭阿方就中
絹帛各地合染色縞
模様号精巧美麗了
して重襦純子縞子
紗綾縮緬羽二重の如

きり各一種は青葉
なまし染料に浸し顔料
みり彩色は青色は
藍は冢取は赤色は
紅を美しき一黄色は

礫木を至きは此外
間色数多あり是と毛
青赤黄は混濁と其
濃淡は過よはる原質
を勅柱鏡の三より取

るも畢竟化學能作
用形あり總て染字織
走るを緩急と一節
あ糸絹を軸とす木
綿ハ主用廣く織紡

毛簡便して打綿を藤
巻や一糸車にて引
好む所も深成す職工
の手紙借らす織て自
用も供もおむ容易の

業あり麻苧を皮を
剥て糸となす苧糸は
綿とく麻糸も布とく
又漁網帆繩等と利用
尤廣く儲又食品乃

醸造は麴さく味噌醬
油酢酒の類にて其法
各異也とく米麦大豆
麹塩化五品に造きす
或も二三味にて醸し

又ハ四五種を混和
加減塩梅或見計心
汁液を取る物ハ壓搾
して精製此酒冬寒
中ニ造る或最美酒也

此他味淋焼酎等皆
造法あり近來西洋
此法を傳へ麦酒葡
萄酒亦多ク醸せ
り葡萄酒亦多ク醸せ

効阿れと何酒論

亦く多く飲むは害あ

り忘しきハ生命を損

ハ家産破る懼ハ

ハ事なり又結晶物

と凝結品の一二を舉

くもハ砂糖ハ甘蔗紙

碎きて壓搾し汁を

取て煮熱し放冷志

高糖ら志む黒砂糖

ハ下号よて三盆白粳
上品なり其結日明して
石の如きを氷砂糲と
いふ 飴は米と麦の麩
を粉末よし亦攪け或

熬て濃稠をなす其
淡ぶを氷飴又ハ酒飴
や一 粥を煎毛其或
糲飴や此ふなり食
塩ハ海取或砂濱可

注き至き蒸し多き水を

煮て結晶せしむ是食

品此大概あり此印職

工の種類類よき和製紙

紙小楮雁皮三楮乃

三種有り蒸して皮紙

剥き能く漂し煮爛

せし漉上り小楮尤其

用最廣く雁皮三楮

こ色し亞く西洋紙ハ

其二三
縹緗を砕き化学を
適用して之を製成し
油煙又ハ香烟ニ
製す上品物なり此ハ
麝香を和して薰香

或者せしむ物又大工
各家屋を建築し丸
官ハ饅ふて餅を造
る石工之石材を切壞
し槍物匣等箱匣の

類をきく棹挽細六
錠車を用ゐて梳乃
類以錠き織ふて栲
桶を造る元桶匠鋼
織以錠練く又物を

出ぬ鍛冶ありき又の
利純元一ふ焔の手練
くあり鑄物師ハ金を
錠一型く入走て悉物
を造る小形る物ハ柑

鞆を用ゐるもの
ハ踏鞆を用ゐる錫金比
類ふ如く鉄織を用ゐ
銅鉛錫比交金を分
量尤肝要なり錦匠

各種の金具を裝飾
し鍍金藝付物と其
形多し鵝番華瓦電
氣の新法は品位最
好く且美著なり擦

附木等近來之製法
を傳へ憐を木端牙
着け磨擦せし火成
おす便利の道具なる
を以て内國純需用の

及家ら以支那朝鮮へ
と輸出せり漆器を漆
を以て木器を塗置
或青赤緑又を茶褐
赤色を出入り或金銀

を以て蔣繪紙を以て
 是等先多細紙一ふ
 して至精巧なる事
 驚く扇を以て純白
 扇子團扇是より反

一最手輕にして且
 粗末を以てと漆を竹
 の二品ハ亞細亞洲紙
 名産ふして欧米亦
 生せず故に是等乃

和のみならず紙寫亦
とハ小児の玩物ニ過す
や種々海外ニ愛せら
る磁器陶器の製造ハ
種類甚多く産地可

よりて青花赤繪素
焼など互ニ精粗優
劣あり艶麗雅致あ
る物ハ亦印玉ニ輸出す
此外雜嵌七寶燒彫

刻 磁 箔 繪 画 寫 真 油
 鑄 金 工 冬 金 術 精 妙
 を 究 む る 者 亦 有 れ 也
 是 等 紙 皆 美 術 といふ
 法 他 工 藝 技 術 甚 多

く 指 取 屈 伸 する 小 違 あり
 ら せ 抑 工 業 の 成 敗 と
 巧 拙 を 主 として 財 本
 の 多 少 器 械 精 粗 及
 理 化 學 の 應 用 土 地 等

形勢如何不係る甘蔗

の繁殖する地と製糖

所を開き養蠶此等

なる取と製絲場を

設く應き自然の勢

あり蒸氣器械及水

車風車等皆動物の

力不換へ工人能勞力

を省く之故名法を

て原動力をいふを適

用の良否ハ専ら物理
學ニ冥す造化の秘を
窺ひ之以て工業上ニ
用是る者至少なりて
化學の理ヲ固執理

化學推究せざるを得
んや若くは資力以て計
らば形勢を察せず
徒ら大利以て博習人
とせば至る失敗を免れ

頃斯く大凡ふ工業ハ
 客よりきり業よあらす
 友より王家の子弟老乞
 第一に算術幾何化
 学物理図畫經濟学
 と一般工業よ必用の
 学を脩め尚進て各
 自専門に学ば修免
 而後其業に堪ふへ
 知後亦凡そハ業を起

此能たに今や理化の
學大ふ開け器械の發
明改良カ又月ふ多々
美術の進歩年々
逐て新又業互互に

美を争ひ巧故競
ふ未開人民の工藝ハ
質朴陋劣よりて拜
明國の製造者美醜
精巧なり工業夫を

身二商往來
振起世亦可久也

竹軒塚谷淺書

新撰農工商往來卷二終

明治二十年一月十七日版權免許
同年二月五日發行

定價五錢五厘

編輯

上村要次郎

石川縣金澤區水溜町廿五番地

書者

塚谷淺

同縣同區下本多町四番丁一番地

出版人

倉知新吾

同縣同區横山町三番丁七番地

明治三十年一月十七日版權免許

同年二月五日發行

定價五錢五釐

編輯

石川縣尋常師範學校

版主

益智館

石川縣金澤區片町
五十六番地之三

